

地域に足取り確

秋の叙勲 広がる

戦後の何もない時代、テニスラケット一つでひたすら白球を追いつけた。大学時代は東北6県大学対抗戦で団体優勝のメンバーとして活躍。母校の恩師に誘われ岩手中・高校に数学教師として54年から42年間勤務。県高総体個人戦優勝、インターハイ11回出場へと導いた。「テニス

▽旭日双光章
村上照五郎さん(74)
スポーツ振興(県ソフトテニス連盟会長)
盛岡市本町通1の11の

白球追い子弟育て

ができるだけでは駄目」と勉強との両立がモットー。65年から84年まで国体監督を11回務めた。3位入賞を決めた71年の和歌山国体が印象深い。国体出場メンバーや教え子らと現在でも集まりテニス談議に花を咲かせる。93年から県ソフトテニス連盟会長、03年から東北ソフトテニス連盟会長も務める。99年の岩手インターハイでは、男子団体初優勝の黒沢尻北高に賞状を手渡した。「本当にうれしかった」と振り返る。盛岡市出身。



テニスと勉強の両立をモットーに指導を続けてきた村上照五郎さん

知的障害児施設「ルンビーニ学園」は6歳から18歳までの知的障害がある利用者が暮らす。「親から大切な子どもを預かっていてということをつも肝に銘じている。健康、安全、平等は大前提」と気を引き締める。学園の開所当時からメンバー。「最近よくそ

▽瑞宝双光章
菊池 克雄さん(60)
児童福祉(知的障害児施設ルンビーニ学園長)
石鳥谷町好地5の223の7

福祉は住民と一体

のころは「す」と極返る。荒れ地のたり「世勢は今、大学び、花1年間園の現と一緒より楽も、現つてい県内いまつもに歩信条だ



盛の
県立宮古病院長、福岡病院長などを経て73年から88年まで北上病院院長。内科医として治療に従事しながら、地域医療の充実に力を尽くした。宮城県古川市出身。

花18
久慈農林高校長、岩谷堂農林高校長を経て、2000年盛岡農林高校長。果樹栽培の技術指導に尽力。県教委指導課にも在職し、生徒指導に力を尽くした。花巻市出身。

盛50
44年に県警入りし、警備部長、盛岡署長などを歴任。80年には現地警備本部長として右翼団体の騒動を治め、公共の安全と秩序の維持に尽力した。宮城県志波姫町出身。

北の
57年に県庁入りし、35年間農政一筋に歩んだ。90年農政部長。県生物工学研究所の設置、農村生活アドバイザー制度の創設など農業振興に尽力した。北上市出身。

長を経て90年盛岡四高校長。英語の教科指導、生徒と教員の育成に尽力。全国高文連、県高文連会長も歴任。宮城県川市出身。

